

3

診療報告

内 科

診療局長：谷水 将邦

I 人事

松下部長が令和5年3月末で異動となり、令和5年度は、谷水診療局長、久代主任部長、谷口主任部長、相見部長、嶋崎医長の5名体制で内科の診療に当たりました。

II 診療実績

令和5年度の外来延べ患者数は23,701人（前年度26,537人）でした。入院延べ患者数は30,491人（前年度38,016人）で平均在院日数は19.9日（前年度18.9日）でした。

専門外来としては、血液（毎週火・木曜日）、糖尿病（毎週金曜日）、消化器（毎週火曜日）、腎・代謝（毎週火・木曜日）、内分泌・代謝（毎週金曜日）、消化器センター（毎週月・火・木・金曜日）、漢方外来（毎週木曜日午後）、禁煙外来（毎週木曜日午後）の診察を行ってまいりました。

引き続き、今後も総合診療科の先生方と協力しながら持続可能な内科専門診療を行い、地域に貢献できるようにと考えています。

総 合 診 療 科

診療局長：庄司 啓介

I 人事

令和5年3月末に廣谷茜医師、尾坂妙子医師が異動となり、令和5年4月に池田紗矢医師が着任しました。また、令和5年3月末に当院で初期臨床研修を修了した上平遼医師が鳥取大学総合診療医育成プログラムの一環で4月から常勤医として勤務し、9月末で小児科へ異動となりました。

II 診療実績

令和5年度の外来延べ患者数は2,543人、入院延べ患者数は23,815人であった。

絆ノート届け出新規登録患者は、24件/年であった。
新型コロナウイルス感染症病棟管理を担当した。

III カンファレンス

- ① PBL(Problem Based Learning)：初期研修医を中心に毎週火曜日7:45からカンファレンスを実施
- ② 総合診療科カンファレンス：毎週月、火、木曜日の17:00-18:00に外来、入院患者に関するカンファレンスを実施
- ③ 内科カンファレンス：毎週水曜日17:00-18:00
- ④ 多職種カンファレンス：毎週水曜日14:00-15:00に倫理的な問題で悩ましい症例についてのカンファレンスを実施

IV 院外活動

市民医療講演会、各依頼講演、診療支援、研修会開催など多数行っている。さらに、行政や医師会をはじめとする各職能団体との交流がさかんになっている。

メンタル・クリニック

診療局長：山根 享

I 人事

山根医師1名体制で診療に当たりました。

II 診療実績

外来診療は、毎週月～金曜日に診察を行っております。

令和5年度の外来延べ患者数は2,345人でした。

メンタルクリニック外来、身体疾患で入院中の患者さんの精神症状に対するリエゾン活動、不隠症状などに対する認知症ケアチーム活動、こころのケアとしての緩和ケアチーム活動などを行いました。院内で開催されているモーニングレクチャーにおいて「統合失調症」について講義しました。

循環器内科

主任部長：森谷 尚人

文責 医長：田淵 真基

I 人事

前年度と同様に、森谷尚人部長、田淵真基医長、戸杉夏樹医長の3名体制で診療に当たっております。

II 診療実績

前年度に引き続き月、水、金曜日を外来、火、木曜日を検査・治療日としております。外来は森谷、田淵、戸杉がそれぞれ初診専任と再診専任に分かれて担当しております。

外来患者のべ人数は3,299人、入院患者のべ人数は3,694人、冠動脈CT件数は49件、心臓カテーテル検査数は102件（緊急37件）、経皮的冠動脈形成術/ステント留置術件数は49件（緊急24件）、経皮的末梢血管形成術件数は1件（緊急0件）、カテーテルアブレーション件数は1件、ペースメーカー手術件数は8件でした。

令和4年4月より、心臓リハビリテーション指導士による外来心臓リハビリテーションを開始しました。月・水・金曜13-16時に予約制で実施しています。

III カンファレンス

- ①毎週月曜16時より予定心臓カテーテル検査・治療患者に関するカンファレンスを医師・看護師・臨床工学技士で実施
- ②毎週火曜16時より循環器内科カンファレンス（入院・外来患者に関するカンファレンス）を実施
- ③毎週月曜15時より、リハビリテーション実施患者・心不全療養指導対象患者に関して多職種チームによる回診・カンファレンスを実施
- ④月一回心臓サポートチーム（循環器内科医師、総合診療科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、臨床検査技師、メディカルソーシャルワーカー、臨床心理士）によるカンファレンスを実施

外 科

病院長：大石 正博

I 人事

人事面では、大石院長、小寺診療局長、水野部長、堀部長、宮本医長、松本医長、濱崎医員で外科診療を行いました。

40.8人でした。入院は、延べ患者数11,646人、一日あたり患者数31.8人、平均在院日数14.5日でした。

II 診療実績

外来は、延べ患者数9,913人、一日あたり患者数

III 手術実績

令和5年1月から12月の間に、全身麻酔318件、腰椎麻酔46件です。近年、鏡視下手術が増加し178件の鏡視下手術が行われました（表1）。

表1 消化器手術実績（令和5年1月～12月）

全身麻酔/腰椎麻酔		全身麻酔	鏡視下手術 (全麻の内数)	腰椎麻酔
消化管	食道	悪性腫瘍（頸部）		
		悪性腫瘍（胸部）		
		悪性腫瘍（腹部）		
		良性疾患	1	1
	胃・十二指腸	胃悪性腫瘍（幽門側胃切除術、PPG）	14	12
		胃悪性腫瘍（噴門側胃切除術）	3	2
		胃悪性腫瘍（胃全摘術）		
		胃悪性腫瘍（胃部分切除術（LECS含む））		
		その他	7	1
	小腸	悪性腫瘍（小腸癌・悪性リンパ腫・GISTなど）	1	1
		良性疾患（UC・クローンなど）		
	虫垂	虫垂炎	21	19
		その他（虫垂腫瘍、腹膜儀粘液腫など）		
	大腸	結腸悪性腫瘍	33	29
		直腸悪性腫瘍	18	17
		良性疾患（UC・クローン・憩室炎など）	4	3
	肛門	悪性腫瘍		
良性疾患（痔・直腸脱など）				
ヘルニア		60	6	9
その他（癒着性イレウス、ストマ造設など）		41	11	34
肝胆膵	肝・胆	亜区域・区域切除以上（外側区域除く）	13	
		胆道再建を伴う肝切除	1	
		部分、外側区域切除	3	
		良性胆道疾患	83	76
		その他	1	
	膵・十二指腸	膵頭十二指腸切除術（PD）	10	
		膵体尾部切除術（DP）	2	
		その他	1	
脾		1		
肝胆膵高難度手術（合計）		28		
その他（腎移植含む）				
小計		318	178	46
総手術件数（局麻除く）			364	
腹腔鏡総手術件数（局麻除く）			178	
NCD登録症例数（NCD入力締切までに登録予定の症例数を含む）			410	

表2 小児科手術実績（令和5年1月～12月）

全身麻酔/腰椎麻酔		全身麻酔	鏡視下手術 (全麻の内数)	腰椎麻酔
小児	ヘルニア・虫垂炎（16歳未満の手術）	3	3	
	その他			
小計		3	3	0
総手術件数（局麻除く）		3		
腹腔鏡総手術件数（局麻除く）		3		

表3 乳腺・内分泌手術実績（令和5年1月～12月）

乳腺悪性腫瘍	乳腺良性腫瘍	甲状腺腫瘍	その他	乳腺内分泌外科手術総数
24	1	2	1	28

脳 神 経 外 科

診療局長：谷浦 晴二郎

I 人事

平成27年4月1日～ 赤塚啓一、谷浦晴二郎

II 診療実績

ここ数年かわりなく、外来診療は火曜日を除く毎日午前中に行っております。火曜日は予定手術日としており、定期外来は行っておりません。木曜日は午後から予定手術をおこなうことができるような体制として木曜日の外来受付を制限させていただいております。第2、4週月曜日と木曜日は赤塚医師、水曜日と金曜日は谷浦医師が担当しております。平成25年から第2、4週月曜日は大学からの応援医師により診療を行っておりますが、第4月曜日は予約限定で血管内治療専門医(坂本准教授)の診療も行っております(いままで血管内治療を行った外来患者さんや今後血管内治療を検討するような患者さんについての診療です)。また第1、3、5週火曜日にも大学からの応援医師により診察をしていただいております。4月からは第1火曜日に下垂体頭蓋底外来として大学から黒崎教授にきていただいております。いままでも下垂体疾患関係の患者さんがおられました。専門的に診ていただけるようにしております。

外来延べ患者数は1,513人で月平均126.1人でした。

入院患者は前年と比較してやや減少傾向です。ひとつは、担当医師の不在時の対応をしないようにしているためとも思いますが、搬入時脳梗塞などで急性期を過ぎている患者さんを総合診療科の先生にお願いしていることも関係していると思います。超急性期脳梗塞に対してt-PA静注の適応がある患者さんには対応しておりますが、急性期血管内治療に適応になる患者さんの場合は、他院へ転送させていただいております(最近症例を選んで谷浦先生が血栓回収を行うことがあります。脳血管撮影装置が古いため、最新の血管内治療には適しておらず、今後は病院の方針によって対応していくことになると思います)。常勤神経内科医師がいない状態では内科の先生も対応していただいております。

5月より新型コロナウイルス感染症の規制も緩和されましたので、本来の業務を今までどおりにでき

るようになることを期待しています。

III 手術

昨年1年(令和5年1月1日～12月31日)の手術症例数は52例、脳腫瘍は2例、脳血管障害は7例(破裂動脈瘤4例(うち3例は動脈瘤塞栓術、1例は開頭クリッピング)、脳梗塞での血栓回収術1例、頸動脈ステント術1例、脳出血に対する開頭血腫除去術1例)、慢性硬膜下血腫23例、脊椎脊髄疾患16例(うち脊髄腫瘍4例、頸椎疾患6例、腰椎疾患10例、いずれも脊椎脊髄センターでの症例)でした。血管撮影装置が使いにくいながらも血管内治療をほそぼそ行なっております(合計5例)が、難しそうなものについては中央病院へお願いしています。

IV 学会発表

「多発神経鞘腫を認めた1例」

赤塚 啓一

第38回日本脊髄外科学会(2023.6.15-16/名古屋市)

「頸椎椎間孔部腫瘍術後に発生した偽性髄膜瘤に対する手術経験」

赤塚 啓一

第58回日本脊髄障害医学会(2023.11.16-17/さいたま市)

「鎖骨下動脈盗血症候群を合併した破裂椎骨後下小脳動脈瘤の一例」

谷浦 晴二郎

第49回日本脳卒中学会・学術集会(2024.3.7-9/横浜市)

整 形 外 科

副院長：森下 嗣威
文責 医長：根津 智史

I 人事（敬称略）

令和5年度の人事面では、森下嗣威（S62入局）、根津智史（H24）、河村涌志（H29）、福安悠介（R5）に加えて初期臨床研修を修了した市場嶺二郎（R5）が専門研修として勤務し、常勤医5人体制として新たにスタートいたしております。これまで毎週水曜日に鳥取大学所属の中河直輝（H31）が非常勤医師として午前外来診療を担当しておりましたが、令和5年10月より常勤医として勤務しております。令和6年3月末には、後期研修医の市場嶺次郎（R5）が岡山大学整形外科での教育研修プログラムに従い、6か月間岡山大学病院へ異動となりました。

II 診療実績

令和5年度の外来延べ患者数は13,011人（1日あたり患者数53.5人、初診平均患者数7.0人）、入院延べ患者数は19,027人（1日あたり患者数54.5人）、平均在院日数20.3日でした。外来延べ患者数は前年日で1.04倍、入院延べ患者数は1.24倍となりました。新型コロナウイルスの影響も少しずつ縮小が見られはじめ、外来・入院患者数共に発熱による対応件数も減ったことから、ピーク時に比べて円滑な退院調整が図られました。

外来診療は、手術日である水曜日には福安医師が、金曜日には非常勤医師により毎日新患患者の対応が可能となっております。手術日以外では、再診を含めて3~4診体制で診療を行い、地域の先生方から多くの患者さんのご紹介を頂いております。

平日日勤帯の救急患者紹介等につきましては、交代制で救急担当医を割り当て、可能な限り受け入れが出来る体制を整え、骨折などの早期加療が必要な患者さんに対しても初期対応から手術までの円滑な診療体制を心がけて診療に務めております。

昨年度4月より運用を開始した大腿骨近位部骨折症例に対する骨粗鬆症リエゾンチームですが、整形外科医師・整形外科外来看護師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士の各1名がチームとなり術後患者さんのベッドサイドへ骨粗鬆症治療導入開始のため引き続き回診に当たっております。また回復期病院へ転院

となった患者さんに対する術後再診の場として毎週木曜日午後に骨粗鬆症外来としての枠を設け、骨粗鬆症治療導入開始から投薬の継続状況、術後ADLや骨塩定量検査による術後経過の調査に合わせまして、新規骨折予防に対するコンプライアンス改善に積極的に取り組んでおります。

III 手術

令和5年度の年間手術件数は941件で、前年比1.30倍でした。

脊椎手術では2016年より導入したOLIF（腰椎前外側椎体間固定術）も定着し症例数も増加傾向にあります。患者の身体的負担が少ない本アプローチによる椎体間固定により術後早期回復が得られております。

人工関節領域では、人工股関節全置換術（THA）に新たにナビゲーションシステムが導入され、これにより症例ごとに異なる適切なインプラント設置位置が術中にリアルタイムで確認でき、更なる治療成績の向上が期待されます。また、逆行性肩関節全置換術（RSA）の使用資格を根津が取得し、当院でも症例に応じてRSA手術を開始しております。

外傷手術では高齢者による脆弱性骨折が中心であるため、麻酔科医や手術室と密な連絡を取り合い、早期手術を継続することが出来ております。これまで保存治療が選択され、長期臥床が余儀なくされていた仙骨骨折や恥骨骨折などの骨盤輪脆弱性骨折に対しても、ナビゲーションシステムを使用した低侵襲下でのスクリュー固定を行うことで早期離床を図るなど新たな試みも開始しています。

IV カンファレンス

毎週水・金曜日の朝7時30分より術前・術後の症例プレゼンテーションを中心に、稀少な症例や治療方針に苦慮する症例などを提示し、整形外科医全員で検討を重ねた上で治療方針を決定しています。

産 婦 人 科

部長：長治 誠

I 人事

令和5年度は長治と非常勤医師の清水（健）、12月からは中嶋が赴任し、3人で診療を行った。

II 診療実績

外来診療は毎日1診体制で、月曜日は午後診療も行った。また4月からは月曜日、火曜日午後は完全予約制でコンシェルジュアプリ、Webexを利用したオンライン診療（情報通信機器を用いたオンライン診療）を開始した。令和5年度は延べ129人の診療を行った。電子カルテシステムと連動した本格的なオンライン診療は、当院で初の試みであり、医療従事者、患者とも不安定な点があったが、診療情報担当者のサポートにより大きなトラブルなく診療が行えた。

III その他

鳥取県東部圏域の産婦人科医の減少に伴い、鳥取県立中央病院、鳥取赤十字病院と開業医の代表者による産婦人科診療に関する意見交換会を、3か月毎に開催している。

V 学会発表・論文・講演等

<学会発表>

「分娩進行中に自然気胸を発症した一例」

中嶋真大ほか

第75回日本産科婦人科学会学術講演会

(2023.5.12-14/東京都)

「当院における三胎および四胎妊娠の周産期予後」

中嶋真大ほか

第75回中国四国産科婦人科学会総会ならびに学術講演会 (2023.9.17-18/松江市)

小 児 科

診療局長：長石 純一

I 人事

令和5年3月末で小林裕貴子医師が退任し4月から長石純一医師、木村昂一郎医師の常勤医師2名体制で診療を行っています。平成27年度から公認心理師1名も常勤スタッフとして加わっています。

II 診療実績

外来は、延べ患者数4,088人で、午前中は発熱などの一般小児外来を、午後は予約制で予防接種、乳幼児健診、小児内分泌外来（小児糖尿病を含む）、思春期外来（小児心身症を含む）、小児循環器外来（月1回）を行いました。

入院は、延べ患者数823人（1日あたり平均患者数2.7人、平均在院日数5.0日）でした。

発達障がい児及び家族の支援のため、ペアレントメンターに係わる相談事業に参加しています。

引き続き、新生児の育児不安に対する支援事業にも参加しています。

これからも、地域の皆様の信頼を得て、子どもたち

に安心して受診していただける小児科になることを目標に、スタッフ一同協力して歩んでまいります。

III 学会発表・講演等

「小児のネット依存 UP DATE -家族からのゲーム問題等の相談事例を通して-」

長石純一

鳥取県東部小児科医会 (2023.5/鳥取市)

「ライフステージ別の療育指導① -乳幼児・学童・思春期」

長石純一

令和5年度糖尿病療育指導士講習会 (2023.10/鳥取市)

「教育入院が効果的であったゲーム障害の2型糖尿病の一例」

長石純一

日本糖尿病学会中国四国地方会第61回総会 (2023.10/松江市)

「小児の頸部リンパ管腫について」

木村昂一郎

鳥取県東部小児科医会 (2023.11/鳥取市)

眼 科

部長：蔵増 亜希子

I 人事

2023年度は蔵増亜希子・渡邊高志医長・4月着任の岡本興亮医員の3人体制で診療業務を行いました。今年度末で渡邊医師が退職、姫路日赤へ異動となりました。

II 診療実績

外来診療は月～金の午前中が一般外来、火・木の午後は特殊検査（主に術前検査・IC・小児の診察）、月・水・金の午後が視野検査・網膜電図検査など、昨年と同様に行いました。

今年度は前眼部三次元解析装置が入りました。角膜の形状解析・乱視の測定など目視困難な部位まで精密な検査が可能となり、眼内レンズを選択する上でも大いに役立っています。

III 手術

今年度は月・火・水午前手術枠、月・水・金の午後枠共に通常通りの使用状況でした。白内障手術905件、

緑内障手術83件、硝子体手術77件、眼瞼手術14件、硝子体注射+球後注射690件、硝子体手術が昨年度より減りましたが、他の手術件数は全て増加しています。

IV 来年度に向けて

長年の課題である「眼科外来が狭過ぎる問題」です。来年度から耳鼻科のスペースを一部拝借してはありますが、検査器機を一部移動し、処置室、診察室の増設ができませんでした。しかし、無理に詰め込んでいる状態に変わりはなく、通路での視力検査、視野検査専用の部屋（暗室）がないため同日に検査ができないなど、問題は山積しております。視覚障害に加え足の不自由な患者さんが多いので器械は少しずつでもコードレス化し、配置も工夫した上でなるべくコンパクトなものにする等今後も努力が必要です。眼科診療は精密器機の性能に頼る部分が大きいため、今後も器機の導入の都度悩む状況が出てくると予想します。

皮 膚 科

医員：川本 雅也

I 人事

令和5年度は安富医師が診療を行いました。令和2年(2020年)10月から1人体制で診療を行っています。

II 診療実績

令和5年度(2023年度)の皮膚科外来延べ患者数は3,875人、1日平均外来患者数は15.5人、入院延べ患者数は、1,048人、1日平均入院患者数2.9人、年間手術数(生検含む)は40件でした。

1人体制となってから、他院からの紹介患者は予約制とし、症状の安定した軽症患者を逆紹介するなど病診連携を継続しています。

乾癬・アトピー性皮膚炎・慢性蕁麻疹の難治例への生物学的製剤投与、尋常性天疱瘡や水疱性類天疱瘡難治例への免疫グロブリン大量投与、広汎型円形脱毛症へのステロイドパルス、遺伝性血管性浮腫へのブラジキニン拮抗薬自己注射処方、蜂刺傷アナフィラキシー高リスク症例へのエピペン処方などの治療を継続しました。

褥瘡対策チームの活動として、皮膚排泄ケア認定看護師とともに全病棟入院患者の褥瘡・スキンテア回診を毎週継続して行いました。

泌 尿 器 科

部長：倉繁 拓志

I 人事

2023年度は、笹岡が広島市民病院に転出、代わって宗田が岡山市立市民病院より着任し、外来診療は早田、倉繁、平田、宗田の4名体制で当たりました。

II 診療実績

外来診療は基本的に手術日の木曜日を急患対応のみとしている以外は、2診体制で積極的に新患を受け入れ、外来患者数の増加に伴い水曜日は隔週で3診体制を開始致しました。結石症例に対する体外衝撃波結石碎石術（ESWL）は、これまで同様に週2回、水曜日と金曜日の午後に施行し、水曜日の午後には女性泌尿器科外来を行っています。

III カンファレンス

倉繁、平田、宗田と3名で、毎週火曜日の午前に行っています。全身麻酔の主たる手術は火曜日、木曜日に予定することが多いために術前カンファレンスはもちろん、治療方針の決定が困難な症例の提示を行い討議しています。

IV 手術

これまでの月曜日、火曜日、木曜日の手術日に加えて、金曜日の午後も手術が可能になりました。月曜日と金曜日の午後は主に前立腺針生検、経尿道的手術などを行い、腹腔鏡手術や開腹術などの全身麻酔を要する手術は火曜日、木曜日に施行しています。

2022年2月にロボット支援手術を開始してから1年が経過し、2023年度は74例執刀しました。その内訳は、悪性腫瘍の前立腺癌33例、腎癌9例、腎盂尿管癌5例、膀胱癌1例、良性疾患の骨盤臓器脱27例でした。

そのほか、当院の特徴である、レーザーを使用した尿路結石に対する経尿道的結石碎石術（TUL）が111件、前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺レーザー切除術（HoLEP）が23件でした。また、鳥取県東部地区では唯一当院が施行している体外衝撃波結石碎石術（ESWL）は69件、女性の骨盤内臓器脱に対する仙骨脛固定術が28件（ロボット手術27件、腹腔鏡手術1件）でした。

表1. 泌尿器科手術統計

	2022年	2023年
総手術件数（ESWL、前立腺生検を含む）	584	703
全身麻酔	243	261
脊椎麻酔	49	66
副腎の手術		
腹腔鏡下副腎摘除術	2	3
腎・尿管の手術		
腎悪性腫瘍手術（ロボット補助下）	1	2
（腹腔鏡下）	6	0
腎部分切除術（ロボット補助下）	9	7
（腹腔鏡下）	0	0
腎尿管全摘術（後腹膜鏡補助下）	4	1
（ロボット補助下）	0	5
体外衝撃波結石碎石術（ESWL）	126	69
経尿道的結石碎石術（TUL）	86	111
膀胱の手術		
膀胱全摘術（ロボット補助下）	1	1
（腹腔鏡下）	3	4
経尿道的膀胱腫瘍切除術	60	67
尿路変更術		
回腸利用代用膀胱(Studer変法)	0	0
回腸導管	3	1
尿管皮膚瘻	1	4
前立腺の手術		
前立腺全摘除術（ロボット補助下）	16	33
（腹腔鏡下）	6	0
経尿道的前立腺レーザー切除術（HoLEP）	27	23
前立腺生検	63	90
陰嚢内容の手術		
高位精巣摘除術	3	1
骨盤内臓器脱の手術		
仙骨脛固定術（ロボット補助下）	6	27
（腹腔鏡下）	20	1

V 学会発表

「ステンレス製リングによる陰茎絞扼症の1例」

宗田大二郎、平田武志、倉繁拓志、早田俊司
第137回日本泌尿器科学会山陰地方会（2023.6.10
／米子市）

「難易度の高いTULの検討」

倉繁拓志、宗田大二郎、平田武志、早田俊司
第11回山陰泌尿器内視鏡研究会（2023.7.15／出雲
市）

「保存的治療で改善せずTAEにより止血し得た尿道
出血の2例」

宗田大二郎、平田武志、倉繁拓志、早田俊司
第75回西日本泌尿器科学会総会（2023.11.3／松山
市）

「門脈圧亢進症例に対してRAPNを施行した1例」

倉繁拓志、宗田大二郎、平田武志、早田俊司
第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会
（2023.11.9／米子市）

「外傷による尿道損傷後、非虚血性持続勃起症または
高度の尿道出血を来した各1例」

倉繁拓志、宗田大二郎、平田武志、早田俊司
第138回日本泌尿器科学会山陰地方会（2023.11.25
／出雲市）

「2023年鳥取市立病院泌尿器科手術統計」

宗田大二郎、笹岡丈人、平田武志、倉繁拓志、早田
俊司
第338回日本泌尿器科学会岡山地方会（2024.2.24
／岡山市）

放 射 線 科

副院長：橋本 政幸

I 人事

放射線科では2023年は2名の医師により各種画像診断、インターベンショナルラジオロジー(以下IVR)、放射線治療を担当しました。そのほか、ドック胸部X線読影の他、脳ドック、膝ドック、PET/CT検診などの健診業務も担当しています。

II 診療実績

2023年4月1日から2024年3月31日の間に作成した診断レポートは、胸部X線：4,258件、マンモグラフィ：1,013件、CT：11,001件、MRI：2,830件、核医学検査：160件、PET/CT：384件、IVR：181件、放射線治療(新規シミュレーション)：65件です。なお、2024年1～2月はMRI装置の入れ替えのためMRI検査は近隣多施設にお願いしておりましたが、3月より検査再開となっています。

外来診療では当科外来患者の他、院外からの紹介患者の診察を行っています。当直医の協力を得ながら平日夕方17時から18時まで開業医からのCT検査(トワイライトCT)を、また、患者サポートセンターの協力を得ながらパートナーシップCT、MRI(画像診断機器の共同利用)も診断レポート作成し対応しています。

III 学会発表・論文等

<学会発表>

「悪性リンパ腫の肺病変」

鳥取市立病院 放射線科 橋本政幸、松木 勉
第257回鳥取県東部胸部疾患研究会(2023.9.21/
鳥取市)

「当院におけるリンパ管造影の経験」

鳥取市立病院 放射線科 橋本政幸、松木勉
鳥取大学医学部 放射線科 矢田晋作、藤井進也
第36回中国四国IVR研究会(2023.10.6-7/岡山市)

「鳥取県東部症例 症例提示」

鳥取市立病院 放射線科 橋本政幸
令和5年度鳥取県肺癌検診従事者講習会および症
例研究会(2024.2.24/倉吉市)

<講演>

「『メスを使わない手術』IVRって知ってますか？」

鳥取市立病院 放射線科 橋本政幸

鳥取市立病院医療講演会(2023.6.24/鳥取市)

「肝細胞癌に対する焼灼療法 -RFAを中心に-」

鳥取市立病院 放射線科 橋本政幸、松木 勉

鳥取大学医学部第2内科 永原天和

第59回日本医学放射線学会秋季臨床大会
(2023.9.15/徳島市)

<論文>

The Guidelines for Percutaneous Transhepatic Portal
Vein Embolization: English Version

Masayuki Hashimoto¹⁾, Yasufumi Ouchi²⁾,
Shinsaku Yata²⁾, Akira Yamamoto³⁾, Kojiro Suzuki⁴⁾
and Asuka Kobayashi⁵⁾

; Guideline Committee, Japanese Society of
Interventional Radiology

1) Department of Radiology, Tottori Municipal
Hospital

2) Department of Radiology, Faculty of Medicine,
Tottori University

3) Department of Radiology, Osaka City University

4) Department of Radiology, Aichi Medical
University

5) Education and Training Center, Tottori
Municipal Hospital

Interventional Radiology 2024; 9(1): 41-48

[https://doi.org/10.22575/interventionalradiology.](https://doi.org/10.22575/interventionalradiology.2022-0031)

[2022-0031](https://doi.org/10.22575/interventionalradiology.2022-0031) <https://ir-journal.jp>

麻 酔 科

副院長：浅雄 保宏

I 人事

令和5年度は、常勤医4名と非常勤医1名の計5名で診療に当たった。来年度の麻酔科の体制は、伊藤先生退職後の補充はあるが、鏗木先生の退職に補充はなく、0.5人の減になる。求められる業務内容は同じであり、手術室はもちろん、救急や集中治療にもかかわり続ける中で、麻酔科の当院への貢献を維持させていきたい。

II 診療実績

新型コロナウイルスの影響などから回復して手術件数が昨年度より増加し、総数で3,483件（220件ほど増）であった。麻酔科担当症例数が1,484件、全身麻酔件数が1,270件であった。昨年と比べて麻酔科担当症例数で50件ほど増、全身麻酔件数はほぼ同じで、脊椎麻酔や静脈麻酔がその分だけ増であった。

救急車受け入れ体制は昨年度と同様に日勤中の午前すべてを麻酔科が担当している。鳥取県立中央病院の救急科増員、充実により、重症患者、外傷患者を中心に当院救急車搬送が減っているが、これら以外の患者（軽症、中等症と高齢者が中心）の受け入れが増えた。2023年1月～12月の当院の受け入れが2,808件、東部圏域での救急車受け入れ総数が11,615件で、当院の受け入れの割合が増えた（21.6%→24.2%）。

救急救命士の研修受け入れは、就業前研修6名、ビデオ喉頭鏡実習4名、硬性喉頭鏡挿管実習2名であり、予定していた期間内に終えることができた。

III 学会発表・論文等

<学会発表>

なし

<誌上発表>

なし

<院内の講習会、講演会の講師派遣>

- ・モーニングレクチャー「ショック」清水、2023/09/28
- ・モーニングレクチャー「医療事故と医療メディエーター」浅雄、2023/11/30
- ・モーニングレクチャー「重症患者の栄養療法」樋口、2024/02/15
- ・CVC挿入講習会 2023/05/12

浅雄 研修医のみ参加

<その他>

- ・鳥取東部ICLSコース（鳥取市）
第55回（2023/06/25開催） インストラクター：浅雄
- 第57回（2023/12/17開催） インストラクター：浅雄
- ・第13回院内ICLSコース（2023/08/20開催）
コースディレクター：浅雄

歯

科

部長：青柳 浩明

I 人事

医師

常勤歯科医師1名（青柳浩明）が勤務しています。

看護師

配属中止となりました。

歯科衛生士

常勤歯科衛生士は加藤真由美歯科衛生士、前田（柿ヶ原）奈々歯科衛生士が勤務しています。現在、前田奈々歯科衛生士は産休中で、産休代行として田中眞知子歯科衛生士が勤務しています。

II 診療実績

歯科は、院内の医科入院患者への口腔内の管理及び食事の支援（摂食支援）を通じて栄養状態や全身状態の維持・改善を目的とした診療を行っています。当院の医科入院患者および医科外来患者を診察しています。外来診察、病棟への回診を行っています。

全身状態が安定している患者に対しては、歯科医師会所属の歯科医師と共に継続的な管理ができるように連携をしています。通院が困難な患者・地域住民に対しては、かかりつけ訪問歯科医院からの訪問歯科診療が必要です。当院入院患者、外来受診患者のみならず、地域の患者・家族やケアマネジャーから相談のあった場合に、鳥取県東部歯科医師会の在宅医療連携推進室の制度の活用を勧めることによって、かかりつけ訪問歯科を持つことへとつなげています。また、医科の外来患者に対する外来診察を主体とせず、当院入院中の患者の全身状態や治療内容によって紹介を受け診察をしています。

外来の延べ患者数6,803人（1日あたり延べ患者数28人、1日あたり初診患者数5人）でした。高齢者総合評価の資格を有している歯科医師による入院高齢者の総合評価の件数は、1,061件（前年度比203人減少）でした。退院後にかかりつけ歯科への通院の困難な要介護高齢者に対してかかりつけ歯科を予め決めておく取り組みとして鳥取県東部歯科医師会の制度を活用した入院患者や在宅で生活している高齢者の人数は、205人（前年度比220件減少）でした。

主に、医科主治医から紹介していただいていた以下の患者に対して行なっています。

- ・当院医科のがん化学療法患者
 - ・手術前の周術期口腔機能管理が必要な患者
 - ・Bisphosphonate製剤等の薬剤関連顎骨壊死の予防処置が必要な患者
 - ・口腔内感染評価が必要な患者
 - ・口腔衛生管理および摂食支援を要する入院患者
 - ・外来受診が可能だが摂食支援を要する患者
- また、う蝕や歯周病等の一般歯科診療を主体とした治療を継続して受ける必要のある患者に対しては、かかりつけ歯科への紹介をしています。しかし、歩行が困難となっている要介護状態の方は、訪問歯科診療が必要であるため、上記の口腔保健連携（鳥取県東部歯科医師会の制度への申し込みを家族が行う）を勧め、歯と義歯の治療や口腔衛生の指導を在宅や施設で専門的に受けることの重要性を伝えています。外来通院は可能であるが、痰の増量やムセの出現など食事で困っている方へは生活支援外来を言語聴覚士、歯科衛生士とともに取り組んでいます。

III 院内保健活動

<口腔ケア保健活動（全病棟）>

毎日13時から各病棟（月曜日：2階東病棟、火曜日：3階東病棟、水曜日：5階東病棟、木曜日：4回東病棟・6階西病棟、金曜日：4階西病棟・6階東病棟）の看護師を対象に口腔ケアを含めた口腔内管理が困難な患者の相談を受け、助言や提案を行った。歯科治療が必要な患者の場合は、医師主治医からの紹介を勧め、歯科治療による口腔内管理に繋げている。

<誤嚥性肺炎予防のための家族および施設者指導（パンフレット指導）>

退院後、誤嚥性肺炎予防や誤嚥性肺炎を繰り返さない目的で自宅退院時の家族指導や施設退院時の施設者へパンフレットを用いて歯科衛生士と言語聴覚士が指導している。

IV 院外活動

- ・東部地区ブロック研修会、鳥取市、2023年6月17日。
- ・市民医療講演会、鳥取市、2024年1月27日。
- ・社会福祉法人鳥取福祉会養護老人ホーム鳥取市なごみ苑職員対象研修、鳥取市、2023年6月30日、2024年2月26日。

